

2018年(平成30年)5月30日

日本労働衛生工学会ニュース

JOHA News Vol.16, No.1, 2018(通巻 No.24)

***** 1. 第 58 回日本労働衛生工学会を富山市で開催します!! *****

第 58 回日本労働衛生工学会を第 39 回作業環境測定研究発表会と共同で、次のとおり富山県富山市で開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 程 平成 30 年 11 月 14 日(水)～16 日(金)
2. 会 場 富山国際会議場 大手町フォーラム
(<https://www.ticc.co.jp/>)
〒930-0084 富山県富山市大手町 1-2
TEL 076-424-5931
3. 実行委員長 一般財団法人 上越環境科学センター
理事 センター長 田村 三樹夫氏

***** 2. 日本労働衛生工学会の事務局が移転しました *****

産業医科大学の保利 一先生が会長に就任されたのを受け、平成30年4月から事務局が移転しました。尚、規約における事務局変更は、11月の総会で規約変更を行った後になります。

〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科内
電話 070-3101-6017 E-mail: info@joha-org.jp

***** 3. 第 28 回日本産業衛生学会全国協議会が東京都で開催されます *****

平成 30 年 9 月 14 日(金)～16 日(日)に東京都大田区の東京工科大学で開催されます。テーマは「働き方の変革期における戦略的産業保健 ～すべての働く人々の健康のために～」です。詳しくはホームページをご覧ください。 <http://sanei2018.jp/index.html>

***** 4. 第 77 回全国産業安全衛生大会 2018 が横浜市で開催されます *****

平成 30 年 10 月 17 日(水)～10 月 19 日(金)に横浜市で開催されます
平成 30 年度は、「安全・健康の決意新たに トップの率先 現場の改善」をテーマに神奈川県横浜市で開催されます。以下のホームページで知ることができます。(<http://www.jisha.or.jp/taikai/>)

***** 5. 第 11 回国際労働衛生学会 (IOHA) 国際会議が米国 Washington, DC で開催されます *****

平成 30 年 9 月 24 日(月)～26 日(水)に The 11th International Occupational Hygiene Association (IOHA) International Scientific Conference が米国 Washington, DC の Marriott

Marquis ホテルで開催されます。テーマは“Bringing Better Health to Workers Worldwide.”「世界中の労働者に健康を届けよう」です。詳しくはホームページをご覧ください。
<https://www.aiha.org/events/IOHA2018/>

6. 「工業用ナノマテリアルの潜在リスクから労働者を守るためのWHO ガイドライン」の紹介

「工業用ナノマテリアルの潜在リスクから労働者を守るための WHO ガイドライン」が世界保健機関 (WHO) から 2017 年 12 月に公表されました。WHO ガイドラインは、当該案件のクエスチョンを設定し、それについて文献レビューを行い、得られた答えに基づいて勧告を作成するというプロセスで、その参加者の一人としてご紹介させていただきます。

2011 年から活動が始まり、2012 年に米国 NIOSH のムラシヨフ博士が議長に選出され、当該案件のクエスチョンを設定する作業が始まりました。2014 年 12 月にはクエスチョンの担当割り振りがほぼ終わりました。2016 年中ごろに各システムテックレビューは出揃い、それに基づきコアメンバーによる WHO ガイドラインの作成とその外部評価への対応・修正に移りました。

2017 年 6 月には WHO 承認となり、12 月に 11 の勧告 (工業用ナノマテリアルのリスク、ハザードクラス、曝露経路と形態、曝露状況、曝露測定と評価、許容濃度、コントロールバンディング、リスク低減対策、労働者教育、健康診断、労働者の参加) からなるガイドライン (英文) が公表されました。

以下をご参照いただければ幸いです。

WHO ホームページ：

http://www.who.int/occupational_health/publications/manufactured-nanomaterials/en/

文責 産業医科大学 明星敏彦

7. 第 57 回 日本労働衛生工学会 (平成 29 年 11 月 7 日～9 日) 報告

平成 29 年 11 月 7 日～9 日まで静岡市のグランシップ静岡県アーツコンベンションセンターにおいて、第 57 回日本労働衛生工学会 (土屋真知子実行委員長)・第 38 回日本作業環境測定協会発表会 (秦野敦臣実行委員長) が開催されました。51 件の一般口演、現場報告、共同シンポジウム、基礎講座、そして 19 件のメーカープレゼンテーションが行われました。工学会の様子をご紹介します。

現場報告

11 月 7 日には、「多様な発散防止抑制措置の設置事例等」について、早稲田大学の名古屋俊士氏より講演があった。平成 24 年から一定要件の下で居所排気装置等以外の発散抑制防止措置の導入が可能となりましたが、導入の経緯、事例を交えた実際の導入プロセス、今後の展開について情報が提供されました。

日本労働衛生工学会・作業環境測定協会研究発表会 共同シンポジウム

11 月 8 日の午後は、共同シンポジウムの第 1 部「経皮ばく露への対応について」と第 2 部「場の測定」と「個人サンプラーによる測定—その測定と適用範囲を改めて考える」が開催されました。労働安全衛生総合研究所の甲田茂樹氏から福井県における膀胱がんの発症事例について、厚生労働省化学物質対策課化学物質評価室の穴井達也氏から行政施策について、十文字学園女子大学の田中茂氏から保護具の選定等について講演がありました。第 2 部では、場の測定と個人サンプラーによる測定の有効性と不足する情報、個人サンプラーで得られたデータの扱い等について、パネリストから問題提起がなされました。また、作業環境測定士に対する個人ばく露測定に関する教育の必要性についても意見がありました。

基礎講座

9 日午前中の基礎講座では、「検知管を用いた化学物質のリスクアセスメントガイドブックの解

説」(東京工業大学 橋本晴男氏)の講演がありました。化学物質の有害性のアセスメントについては専門的な知識が必要であり、特にばく露の推定が難しいと言われていますが、ばく露測定の簡単な方法として、検知管を正しく活用するための方法について、ガイドブックに沿って説明がなされました。

総会

11月9日の12時15分より労働衛生工学会総会が開催されました。出席者と委任状で定足数を満たすことを確認後、議事次第に沿って総会が進み、決算及び予算について了承されました。尚、今年度より会計年度が10月1日スタートに変更となっています。また、次回の工学会・測定協会研究発表会を、平成30年11月14～16日に、富山市において開催することが了承されました。

講演内容は抄録集に詳しく掲載されており、写真は当学会ホームページからご覧いただけます。工学会事務局にて残部を販売しておりますので、ご興味がおありの方は工学会事務局までお問い合わせ下さい。また、次年度の学会誌「労働衛生工学」にも発表内容がまとめられます。

文責 編集委員会 小野真理子



現場報告



共同シンポジウム第1部

日本労働衛生工学会ニュース JOHA News Vol.16, No.1 (通巻24号) 2018年5月30日
発行：日本労働衛生工学会 The Japan Occupational Hygiene Association (JOHA)
編集責任者：小野真理子 労働安全衛生総合研究所 E-mail: <ono@h.jniosh.johas.go.jp>
事務所：〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ケ丘1-1
産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科内
日本労働衛生工学会
ホームページ：<http://www.joha-org.jp/>
電話：070-3101-6017 E mail:info@joha-org.jp